
Small regret or Big regret...?

桜実保乃佳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S m a l l r e g r e t o r B i g r e g r e t . . . ?

【Nコード】

N 0 3 6 8 S

【作者名】

桜実保乃佳

【あらすじ】

…伝えたくても勇気がない。今になってこみ上げる後悔…
それは大きい…？それとも小さい…？

新一君死にネタです。嫌な方はB A C Kしてください。

A i - H a i b a r a (前書き)

すぐに完結する予定です。大体2・3話くらい？

A i - H a i b a r a

工藤君は死んでしまった。組織を破滅させたものの解毒剤の副作用で内臓も体ももうボロボロだった

蘭さんをはじめとする人たちは勿論、小五郎さんまで泣いていた
まあ、江戸川コナンのときにいつも一緒にいたから、家族以上
に思えたのかもしれない

私もだった…

「新一、新一い…。」

冷たい工藤君を抱きしめて蘭さんは泣いていた
私も、工藤君の主治医として、彼を生かせられなかったこともそう
だけどいつぱい悔いがあつた

夢だといいのに…夢から覚めて…

さあ、いつもの元気な工藤君に戻って…
また楽しい毎日を過ごしましょ

って簡単に終わればいいのに…

「哀ちゃん、歩美ね、凄く悔しいの…。だってだって…新一お兄さんに大好きだったよ！って伝えられなかった…。
大好きだったのに。伝えられなかったんだもん。
新一お兄さん、戻ってきてよ。」

全て私のせいだ…。私がこんな薬作らなければ良かったんだ…
そうすればこんな悲しい結末にならなかったのに…
バッドエンド

私はなんていっていいか分からない

「ゴメンね、歩美ちゃん、ゴメンね…。」

こっとうしかなかった

「哀ちゃん？どうして謝るの？哀ちゃん…。顔を上げてよ。」

私は顔を上げられない…。ずっと下げたままだった…

「…姉ちゃん。話があるんや…。」

私はそつと顔を上げる

工藤君の最高のライバルであり最高の友達。服部平次。

私は大阪の探偵君に連れられて月が良く綺麗に眺められる場所へ来た

「…話って何？」

服部君は少しポケットから1つの紙を取り出して私に渡した
受け取る。

「中身、私が見てもいいの？」

無言で頷く彼

私は静かに紙を開いた

「！」

私は絶句した。何で…？何で彼は私のことをこんなに知っているの？
すごした時間はたった1年という短い期間だったのに…

1年だけで何でこんなに私のコトを分かっているの？
私、貴方のこと、全然、分からなかった

いる時間は長かったのに…

☞
灰原

これを服部から受け取ったってコトはもう俺は死んでんだな。
いつも俺のコトを思ってくれてサンキューな。眠る時間削って解
毒剤完成させてくれて有難うな。

俺はもう少しで死ぬ。だからこの手紙を書いて服部に預けたんだ。
蘭のコト、宜しくな。

あと自分の言いたいことは無理しないで言えよ。そのほうがすっ

きりすつから。

あと返事を書きます。俺は灰原の気持ちがおぼ分かった。オメガが俺を好きだってコトも…。

俺は…灰原も蘭も同じくらい好きだ。二股だと思われてもかまわない。

好きだから。…じゃあ、そろそろ手紙ではサヨナラだな。そして最後にこの写真を同封します。

新二

…同封された写真は江戸川コナンから工藤新一に戻ったときに私が
工藤君と一緒に撮ったツーショット

…バカみたい…、何が二股よ。私の気持ちがほぼ分かってたって何
よ…

私は貴方のことを何1つ知らなかったのに…

悔しくてしょうがない…

彼のことを知ればよかった。もっと彼と話して置けばよかった

この時間が永遠に続くと思ってた私が甘かった…

伝えたい気持ちもずつと諦めてて最後までいえなかった…

なのに工藤君が死んでから凄く伝えたいって思った…

貴方のコトが好きででしたって最初から素直に言えばよかった。
そうすれば後悔は小さい後悔だけで済んだ…

でも今になる段々後悔が大きくなって…、もう爆発してしまいそう

「…工藤もアホやな。」

服部君は私の後ろで静かに呟くと静かにその場からいなくなった

彼の後姿は凄く寂しそうで怒りがこもっていた

「…ほんとに…、大馬鹿よ。」

私は空を見上げて呟いた

「私、工藤君が大好きだった。天国でもお幸せに。工藤君。」

私は月を見てこう呟くとその場を去った
工藤君、いえてよかったわ…

A i - H a i b a r a (後書き)

何かありましたら作者まで！

平成23年3/29 桜実保乃佳

R a n - M o r i

「新一のバカ!」「もう早く帰ってきてよ...。」「お帰り、新一!」

これ以上かもしれない。私が新一へ言い続けた言葉は...

新一はいつもホームズの話しがなくて、事件になれば授業なんかもほっぽって事件現場へ行ってしまう

いつも呆れてたけどこれは新一にとっては日課だったのかもね? 毎日、こんな楽しい毎日をすごして毎日こんなくだらなくたって思う毎日を過ごしてずっと笑っていいこうねって...

ずっと思ってたのに...

「え...? 死んだ? 新一が?... 嘘でしょう?」

ある日突然かかってきた1本の電話が私の未来を大きく左右した相手は哀ちゃん、新一の主治医だった。

哀ちゃんはいつも新一の治療のために懸命に働いてくれた
私もお手伝いしたかった

でも

「私の責任だから…蘭さんはただ彼の傍についていてあげて。」

というだけだった

何でもかんでも自分で責任をすべて背負う子

相談すればいいのに…。

私たちも一緒に戦う仲間なんだから…

「…新一、目を覚ましてよ。お願い…、私に微笑みかけて…。優しい笑顔で微笑みかけてよ。」

私は目の前にいる新一に抱きついた
私の世界が一瞬ひっくり返った

冷たい…、氷みたい…ううん、それ以上に冷たい

顔も真っ青…。新一じゃない、こんなの新一じゃない

私は怖かった、昨日まで明るかった顔がたったの1日で変わってしまっ…

新一のお通夜にも行く気にはなれなかった
でも行かなきゃ、新一にお別れしなきゃっていう少しの思いがあった

「蘭ちゃん、少しいいかしら？」

私は新一のお母さんに呼ばれた
私は涙をぬぐい、新一のお母さんの基へ行き移動した

「あの、用って何ですか？」

新一のお母さんが躊躇っていたけど、一枚の紙を私に渡した

「この前、新ちゃんのお見舞いに行ったときに、これ蘭ちゃんに渡してくれって…。」

蘭ちゃんだけに読んでほしいみたいなの。」

新一のお母さんはそういつて静かに去っていった

『蘭

母さんからこの手紙受け取ったんだな。多分、俺が死んで1番シヨックを受けるのは蘭だと思う。

いつも待たしちまってゴメン、だから待たせた分だけ蘭の笑顔を増やしてやろうと思った、なのにこの逆だったな。もう蘭を泣かせないって誓ったのに…

でも決して灰原を攻めないでやってくれ。でも蘭なら優しいから大丈夫だよな…。

俺は蘭のコトが好きだった。でも灰原のコトも同じくらい大好きだった。愛してた。でも俺みたいな男なんかやめて蘭は新しい恋を探せ、そして俺の分まで幸せになって、俺のトコに来て自慢してくれ。

いつかその日を楽しみにしてる。じゃあな。

新一
『

…何でだろ。泣けてきちゃう
後悔してる自分がいる…

後悔なんてするものじゃないのに…

いえなかったから？私自身の気持ちを新一に伝えられなかったから？
悔しいよ、大きい後悔しちゃった。

素直に言えばよかった話じゃない。今になつて積み重なる後悔って
このことなの？

「新一、好きだよ！！ずっと大好きだよ！！」

私は綺麗な月に向かっていった
この思い届くか分からないけど、でもいつか届く日を信じて…

バイバイ、天国でも幸せにね、新…じゃなくて大馬鹿推理之介さん…。

R a n - M o r i (後書き)

あと1話で完結かもです♪最後まで温かい目で見守っていてやってください。

平成23年3/29 桜実保乃佳

Heil-Hattori(前書)

完結です
♪

Heiji・Hattori

何でや工藤、約束したやないか。

俺らは死ぬまでライバルやって…、どっちかが先に死んだら許さへんでって

なのになんでこんな約束すっぱかしてお前は昇っていったんや？

工藤のバカ…

大馬鹿…

「何でいつもアポなしで来るんだよ！」

この台詞ももう聞けなくなつてまう。この言葉が聞きとつて来たんに…、推理だつてお前がいな犯人は捕まらへん

「工藤君…。何で…。」

和葉も泣いとつた

俺は泣きとつても泣けん。探偵が女の前で泣いたら気色悪いやろ？でも怒りだけは収まらん…

「…平次、泣きたいときは泣いてええんよ。」

和葉の言葉が凄く優しく俺の胸に入ってくる

…アホ、そないに優しく言われたら泣きたくなくても涙が無意識に出てしまうやろ…

アカンアカン！！泣いた顔なんかしたら工藤に笑いモンにされてまう

でも無意識に出てくるわ…

アカン、かつこ悪い…

でも止まらん

そして後悔も俺の中に何ぼかあった
楽しかったことを素直にいえなかった

喧嘩しても気持ちと言わなかった
後悔することありまくりやんけ

工藤にこの涙は見せんようにせなあかな。
な、工藤。

「サンキュー、服部。」

一瞬、工藤の声が聞こえたんは気のせいかな？

でも確かに聞こえた…

俺は綺麗に輝く月を見てこう呟いた…

「サンキューいうんは俺んほうかも知れんな…。」

天で幸せに暮らせや工藤、また別の世界で推理勝負しよな…

それまでちゃんと頭鍛えとけや、天の中では推理なんか滅多にせんやろっから…

「うつせーよ、バーロ。」

俺は再度月を見て笑った

工藤も笑っとなるように見えた…

Heiji・Hattori(後書き)

完結です。1日で完結したため文章がヤバヤバですがまあ、ヨロです。

感想も待ってます！

では、他の連載作品もお願いします。

平成23年3/29 桜実保乃佳

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0368s/>

Small regret or Big regret...?

2011年4月12日16時48分発行